

しんじやうおへや

そこは、日本に似た、ある国の、死刑執行室。

部屋の片隅、床から一本の丈夫そうなロープが天井へ向かって延びている。そのロープは天井を伝って部屋の中央から垂れ下がり、その先は輪になっている。その真下の床は九〇センチメートル四方に区切られ、下方へ向かって開く仕組みになっている。「踏み板」と呼ばれる場所。

部屋のやや奥側には部屋を仕切ることが出来るようにカーテンが吊されている。そのカーテンの向こう側、一番奥の壁には3つのボタンが等間隔に設置されている。どうやら踏み板を開閉するためのスイッチになっているらしい。
また、壁際の床からは一本のレバーが飛び出ており、それも3つのボタンと同様、踏み板を開閉するための装置だ。

第一話 回路

時間は午前一時を回ろうとしている。
同日一〇時三〇分からの死刑執行に備えて予行演習をしている様子。

部屋には刑務官3名が立っている。処遇課長・小栗、係長・安岡、一般職員・谷田部である。

小栗

では、カーテンを開けて、進め。

カーテンが開くと、その向こうには私服姿の死刑役の刑務官・杉宇良と、それを脇で固める一般職員4名（甲村、能野、永瀬、柏木）がおり、前方へ進んでくる。
杉宇良は白布で口以外の顔を隠され、手も後ろ手に手錠をかけられている。
やがて、抵抗する演技を始める。

しんじやうおへや ～ 第一話 回路 ～

杉宇良

おい！ やめろ！ 何でもするからやめてくれ！

永瀬

おとなしくしろ！

杉宇良

頼む！ どうしても最後に言っておきたいことがあるんだ！

柏木

黙れ！

杉宇良

お願いだ！ 後生だ！

永瀬

今更そんなこと言っても無駄だ！

杉宇良

お願いだ！ 言わせてくれ！ 聞いてくれ！

柏木

静かにしろ！

杉宇良

俺の話を聞いてくれ！

永瀬

もう遅い！

杉宇良

頼むから聞いてくれ！ これを言い残したままじゃ死んでも死にきれない！

柏木

だめだ！

杉宇良

言わせてやれ！

能野

え？

甲村

いいだろ話をさせるくらい。

杉宇良

ありがとうございます！

能野

いや、でも甲村さん、

甲村

別にそれくらい問題ないだろ。

能野

しかし、先ほど控え室の方で手紙も書き残させておりますし、それ以上のことは

永瀬

必要ありません。

柏木

速やかに任務を遂行しましょう。

杉宇良

え。
死刑囚がこの世に残していく言葉を、最後まで聞き届けることも、我々の任務ではないか。

違うか、能野？

しんじょうおへや

～ 第一話 回路 ～

能野 甲村 え？ あ、まあ、確かにそういう一面も、なく、もない、かも、です。
あるということだな？

能野 甲村 ええ、はい。

永瀬 甲村 永瀬。柏木。

……了解しました。

了解しました。特例と言うことで。

甲村 (杉宇良に) では三塚、特例で3分だけ時間をやる。今度こそ言い残しが無いように話せ。

杉宇良 5分……。

甲村 3分だ。

杉宇良 5分……。

甲村 3分だ。

杉宇良 ……分かりました、3分で。

甲村 よし。

杉宇良 ……あれは確か、十年前のある夏の日のことでした。その日は朝からうだるような暑さで、

前

の晩から素っ裸で横になっていましたが、体中から汗が噴き出して止まらないので、近所のコンビニでアイスクリームでも買ってこようと思い、財布だけを持って出かけました。

そんな与太話、

3分待て。

……。

杉宇良 外に出ると、さらに汗が噴き出し、意識が朦朧としながらもなんとかコンビニへとついた私は、

どのアイスを買おうかと迷っているうちに、コンビニのクーラーですっかり体が冷え切ってしまった、アイスクリームを食べる気が段々と失せてきたものの、何も買わずに帰るのもバカしいので適当なアイスを手に取りレジへと向かいました。ところがです。

あと2分。

杉宇良 財布の中にはたったの26円ぼっちしか入っていませんでした。そんな自分を見る店員や周

り

の客の視線は汚物を見るのように感じました。冷え切ったはずの身体は再び熱を帯びはじめ、手に持ったアイスを握りしめ、握りつぶし、目の前の中年女性に向かって投げつけてから店を飛び出しました。

お前……。

柏木

杉宇良

背中越しに悲鳴を浴びながら、キチガイだと罵られながら、私は走りました。それから逃れる

ように家に向かって走りました。しかし、どこまで行っても逃げられないような気がしていました。すれ違う人たちの視線が刺さり、声が張り付き、

あと、一分。

甲村

俺が何をしたんだ。どうしてこうなったんだと、問いかけました。いや、叫んで回りました。

杉宇良

しかしその叫びは周囲からのさらなる叫びにかき消されていくのです。

甲村

あと、三〇秒。

杉宇良

俺は泣きました。泣き叫びました。しかしそれすらもまた世間の風にかき消され、残ったのは

は

「絶望」の二文字しかありませんでした。

甲村

二〇秒。

杉宇良

やつのことで家に辿りつき、生ぬるい水道水を蛇口から直に飲み込みながら、再び自分に

問

いかけた「世間は、なぜ俺をあんな目で見てるのか……!？」

甲村

一〇秒。

杉宇良

俯くように我が身を見下ろし、そこでようやく気づいたんです。ああ、そうか、

甲村

3、

杉宇良

そうか、

甲村

2、

杉宇良

俺が、

甲村

1、

杉宇良

素っ裸のままコンビニに行ったからだ！

甲村

以上か！

杉宇良

以上です！

間。

しんじやうおへや

～ 第一話 回路 ～

甲村、杉宇良の頭を無言で叩かれる。

杉宇良 ……そりゃキチガイ呼ばわりされるよね。

永瀬 能野！

能野 はい！

能野、杉宇良の足を縛り始める。

杉宇良 あ！ もう一つ！ もう一つあります、言い残したこと！

柏木 後はあの世まで持つて行け！

杉宇良 次はもう少し面白いです！

永瀬 うるさい！

杉宇良 甲村さん！

甲村 もう……本当に死んじゃえよ、三塚。ていうか、杉宇良。

杉宇良 えー！ ちょっと！ ワン・モア・チャンス！ ワン・モア！ ワン・モア！

柏木 谷田部、手伝え！

谷田部 ……。

柏木 おい、谷田部！

杉宇良、喚きながらも、首に縄をかけられそうになる。と、

小栗 はい、もういいもしいい！ ストップ！ ストップ！

甲村、能野、永瀬、柏木、止まる。

安岡 (溜め息) ったく、しょうがねえなあ。

永瀬 ワン・モアじゃねえよ。

能野 笑い堪えるの必死でしたよ(笑)。

杉宇良 とりあえず、あの、顔の布外してもらってもいい？

甲村 お前、しばらくそうしてろよ。

杉宇良 おい！

小栗 いやいや、杉宇良の外してやれ。

柏木 はい。

杉宇良の顔の白布と、足の縛りを外す。

甲村 お前、さっきの話何なんだよ。

杉宇良 いや、即興で必死で考えながら喋ってたんだけど。

甲村 即興にしてもくだらなさすぎる。

安岡 大体、素っ裸で外出た時点で気づくだろう。

能野 そうですよねえ(笑)。

杉宇良 いや、分かんないですよ？ 人間、いっどんな間違いを犯すかなんて分かりませんよ。だって

俺、

コーラと醤油間違えたことありますよ？

柏木 間違いの次元が低すぎますよ。

能野 え、コーラと醤油つて、え、間違えて醤油飲んじゃったんですか？

杉宇良 いや、逆、逆。醤油と間違えてコーラを冷や奴にぶっつけたの。

小栗 コカ奴か。

杉宇良 いえ、ペプシ奴でした。ペプシ奴NEXでした。

安岡 低カロリーじゃん(笑)。

杉宇良 意外とデザート感覚でいけるんだよ。

柏木 それ、食ったんですか？

杉宇良 食ったよ。口の中で豆腐がはじけるはじける。

能野 踊る踊る。

永瀬 バカすぎるでしょ！

谷田部以外、笑う。

しんじやうおへや

～ 第一話 回路 ～

谷田部

(周囲に当てつけるように) ……ほんと、バカですね。

能野以外、笑うのを止める。

能野

あはは……(笑っているのが自分だけに気づき)あ、すいません。

安岡

……ま、話の内容はさておき、対処としてはまあ、大体さっきの感じでいいんじゃないか？

甲村

そうですね？ あんまり話聞いてたりしたら、際限なくなりませんか？

安岡

だから甲村さんが言ったみたいに、2分とか3分とか、その程度の猶予を与えるならいいんじゃないか？

能野

そうですね。

永瀬

猶予なあ……でも、僕は無駄だと思いますが。

谷田部

……無駄とまでは私は言わないですが、やはり速やかに遂行すべきだと思いますがね。猶予

能野

ら十分与えてるはずですから。この部屋に入る前に。

安岡

それと分かりますけどね……。

小栗

(小栗に)どうしようか？

甲村

……甲村の考えも分かるが、この部屋に入ったら速やかに執行するのが原則だ。わずかな時間であっても本人の希望で執行作業を遅らせるわけにはいかない。そこは無視すべきだと考える。

安岡

……そうです、ね。では、何を言われても無視と言うことで。

一同

はい。

小栗

じゃあ、もう一回やるぞ。いい加減最後まで行くぞ。

杉宇良

まだやるんすか？

小栗

最後までスムーズに通せてようやく終わりだ。

能野

すいせん、今何時ですか？

安岡

現在、1時8分。

小栗

2時間以上になるな。さ、しっかりやるまで帰れんぞー。

甲村

(溜め息)

小栗

杉宇良さん、頼みますよ。

甲村

え、何を？

永瀬

ちゃんとして執行されてください。

甲村

ちーす。

永瀬

死囚の気持ちでな。

小栗

いや、それは無理無理。

甲村

課長。

永瀬

え？ いえ、大丈夫ですけど。

甲村

いいから。

杉宇良

じゃあ、そうして。

杉宇良、甲村、能野、永瀬、安岡はカーテンを開め、その奥に待機する。

小栗

では、カーテンを開けて、進め。

冒頭と同じように、カーテンを開け、刑務官たちが登場する。

今度はすぐに杉宇良が抵抗し始める。

杉宇良

おい！ やめろ！ 何でもするからやめてくれ！

甲村

おとなしくしろ！

杉宇良

(激しく抵抗し始め)おとなしくするからやめろって！

甲村

やめられるわけないだろ！

杉宇良

頼むからやめてって！ 死んじやうって！

しんじゃうおへや

～ 第一話 回路 ～

甲村 無理だ！
柏木 暴れるな！
杉宇良 いや、違う！ 脇！ 脇！ 左脇！
柏木 え？
杉宇良 ちよ、放して！ 一回放して！ マジで一回放して！ マジでお願いだから！
（動揺し）あの、課長、
柏木 おい！ 一旦、放せ。
小栗

職員たち、杉宇良から手を放す。
甲村、ニヤニヤと笑っている。

杉宇良 ……はああ……ちよっと、甲村！
甲村 何だ。
杉宇良 どさくさに紛れて脇くすぐるのやめろよ！
甲村 お、ばれた？
杉宇良 そりやばれるよ！
小栗 おい、甲村あ！
甲村 （笑いながら）小栗課長、違うんですよ、これくらいやった方が迫真の演技が見れると思うて。
小栗 ま、確かに迫真だったけどな。
柏木 俺もマジで焦ったもん。
安岡 俺も見ててちよっと焦ったよ。

一同、笑う。
谷田部一人、それを軽蔑するように眺めていたが、一言怒鳴る。

谷田部 いい加減にしませんか！

一同、静まる。

谷田部 ……何時間続けるつもりですか。
小栗 ……谷田部。
谷田部 課長、いい加減にしましょう。
安岡 おい、
谷田部 これ、何の予行演習でしたっけ？

間。

甲村 ……少し煮詰まってきたから休憩にしませんか？
谷田部 煮詰まった？
小栗 ……では、5分だけ休憩をとろう。
谷田部 ！ 小栗課長、
小栗 休憩後、一発で決めよう。
一同 はい。
小栗 では、休憩。

小栗と谷田部と安岡以外の人間は、ガヤガヤと部屋を出て行く。

小栗 係長は。
安岡 （かわすように）あ、じゃあ……私も、タバコ行ってきます。
小栗 うん。

安岡も出て行く。小栗と谷田部の二人きり。

小栗 谷田部は。
谷田部 僕はいいです。大して何もしてませんし。
小栗 うん、まあな。
谷田部 万が一暴れた時の補欠要員ですから。
小栗 補欠ってわけじゃないぞ。

しんじょうおへや

～ 第一話 回路 ～

間。

谷田部 ……いいですか？

小栗 ん？

谷田部 いつもこうなんですか？

小栗 こうって、何がだ。

谷田部 なんなんですか、この緊張感の無さは。

小栗 うん、ああ。

谷田部 明日、いや、日付変わって今日か。今日、数時間後にはここで執行されるんですよね？

小栗 そうだ。

谷田部 三塚の死刑執行が行われるんですよね？

小栗 ああ。

谷田部 こんなことでもいいんですか？

小栗 いや、良くない。良くないからこうやって夜遅くまで予行演習やってるわけだろ。

谷田部 ……なんでこんなことに2時間もかかるんですか。

小栗 疲れるよなあ。

谷田部 始めから全員が緊張感もってやれば、せいぜい1時間もあれば済む事じゃないんですか!?

小栗 なんでおふざけ半分でダラダラとやらせてるんですか！

谷田部 そう見えるか。

小栗 見えますよ。どう見たってそうでしょう。挙げ句に笑ってるんですよ？ ヘラヘラと。不謹

谷田部 慎

小栗 だとは思わないんですか、課長は。

谷田部 ……谷田部は、執行担当は初めてだったな。

小栗 そうですが。初めてですが。

谷田部 だよな。

小栗 それは何ですか。初心者黙って見てろと言うことですか。

谷田部 黙ってろとは言わないが、未経験者には分からないこともある。お前の気持ちも分かるが、

小栗 あまり気張るな。

谷田部 ……。

小栗 ……大丈夫だ。次で最後にする。時間も時間だし。

谷田部 ……。課長、

小栗 ん？

谷田部 他の人と交代をお願いしたいんですが。

小栗 交代？

谷田部 ただ見てるだけは退屈です。

小栗 谷田部、

谷田部 脇を抱える役でも、足を縛る役でもいいですから、交代させて下さい。

小栗 それは無理だ。

谷田部 無理じゃありません。

小栗 お前はまだだ。

谷田部 いずれ経験することなら、早く経験しておきたいんです。

小栗 だから今回、チームに入ってるじゃないか。

谷田部 補欠じゃないですか。ここに突っ立ってるだけの。

小栗 ……じゃあ、教誨師の役でもやってくれ。

谷田部 教誨師？

小栗 杉宇良が死刑囚役でやってるんなら、教誨師役がいてもいいだろ。ナンマンダブでもアーム

谷田部 ン

小栗 でもいいから祈っててやれ。

谷田部 馬鹿にしてるんですか？

小栗 ……それがいやだったら、本来の自分の役割を全うしろ。さっき柏木にヘルプされた時、な

谷田部 ぜ

小栗 動かなかった。

谷田部 あんな茶番に加わっていうんですか。

小栗 谷田部。

谷田部 ……。

小栗 ちゃんと、やれ。

小栗、谷田部に背を向け、腕時計を見る。

第三話 彷徨 さまよひ

時間は午前10時半頃。場所は第二話と同じ部屋のようだ、が……。

静寂の中、三塚 孝（みつづか たかし）が、第1ボタンの取れたYシャツを着て、一人つつ立っている。

三塚は不思議そうに部屋を眺め、歩き回る。やがて穴の開いた天井を見上げ、

三塚 眩しい。……他は……何もないな。

三塚は第1ボタンが取れた部分を気にしながら、考え込み、ひとまずドアから出て行こうとする。ドアノブに手をかけ、ドアを開くと、同時に向こう側から女が入ってくる。女は二十代後半ほどだろうか。仕事帰りのOLのような服装をしている。

三塚と女、目が合う。

三塚 あ。

女 ……えっと、

三塚 え？

女 いや。

三塚 ビックリした。

女 すいません。

三塚 あの、え？ えーと……。

女 すいません。

三塚 誰ですか？

女 え？ 僕ですか？

三塚 いや、はい。

女 誰って……んーと……ていうか、お会いしたことありますよね？

三塚 ……。いいえ。

女 そうですか？

三塚 分かりません。

女 分かりませんって、その、勝手ですが僕はお会いしたことあると思いますが。

三塚 ……誰です？

女 誰って、何て説明したらいいですかね。

三塚 すいません。あなたのこと分かりません。知りません。

女 そんなはず無いでしょう。だって、

三塚 何ですか？

女 だって……だって……あれ？ 忘れちゃったな……。でも、絶対会ったことあります！

三塚 何言ってるんですか、さつきから。

女 何って、

三塚 （やや怯えたように）やめて下さい。

女 何も……。

間。

女 行かないんですか？

三塚 行くつもりだったんですけど、ちょっとその前に聞きたいんです。

女 誰なんですか、あなた！

三塚 ここはどこなんですか！

女 ……は？

三塚 すいません、大声出してしまつて。ただ、気がついたらこんなところに居たつて言うか、ち

女 よっと自分でも理解できてないんですけど、

三塚 ここは私の部屋です！

女 は？ あなたの……？

三塚 そうですよ！

しんじゃうおへや

～ 第三話 彷徨 ～

三塚 え……私の部屋ですって……いや、こんなところに？ それはないでしょう。
女 私の部屋ですから！
三塚 でも、何も無いですよ？ ただ何も無い部屋で、天井に穴が開いてて。
女 さつきから変なこと言わないで！
三塚 いや、変なこと言ってるのはそっちでしょう。（女に近寄ろうとする）
女 近づかないで！

女、部屋の奥へと走り去る。忽然と消える。

三塚 あれ？ ……部屋の奥があったのか？ さつき見たときは気づかなかったけど。あの人、誰だっけ？ 絶対会ったことあるはずだけど……。

そこへ、ドアの外から刑務官・小栗が入ってくる。

小栗 どうした？
三塚 ん？ あ、小栗さん。
小栗 何か喋ってなかったか？
三塚 あ、いや、独り言です。
小栗 何喋ってたんだ。
三塚 だから、独り言ですよ。
小栗 その独り言の内容だよ。
三塚 内容ですか……忘れしました。本当に。本当です。
小栗 なんだ、もうボケてきたのか。
三塚 多分、どうでもいいこと喋ってたんですよ。
小栗 落語でも喋ってたか。
三塚 そんなもの喋れませんよ。
小栗 じゃあ何喋ってたんだ？
三塚 ですから……忘れしました。
小栗 （ふと気づき）雨だな。

三塚が振り返ると、うつすらと雨の音が聞こえてくる。

小栗 いつからだ？
三塚 1時間くらい前からだと思いますが。朝は晴れてましたけどね。
小栗 時計もないのによく時間わかるな。
三塚 いえ、なんとなくです。大体です。
小栗 そうか。
三塚 ……雨は嫌だな。

雨足が強くなる。

小栗 ラジオでも聞くか？
三塚 ラジオですか。
小栗 たまにはどうだ。
三塚 ……いいです。
小栗 そうか。
三塚 すいません。
小栗 いや。
三塚 ……。
小栗 そういえば、ちよっとお前に聞きたいと思ってたんだが。
三塚 何でしょう？
小栗 あいつのこと、どう思う？
三塚 あいつって？
小栗 谷田部。
三塚 ああ……。
小栗 お前の目から見て、あいつはどう見える？ 最近。
三塚 それは、私が言うべきことじゃないですよ。
小栗 いや、お前の意見を聞きたいんだ。あいつは以前、お前と揉めたこともあったし、また何か
小栗 小栗さん。

しんじゃうおへや

～ 第三話 彷徨 ～

小栗 何もありませんから。以前から、何もありません。
三塚 ……どう思うかだけ教えてくれればいいんだ。率直な意見を。いや、感想か。印象。
小栗 ……立派にやっつてると思えますよ。刑務官としての誇りというんですか？ そういうものを
三塚 しつかり持つてると思えます。若いのに立派だと思います。
小栗 誇りというか……気持ちが強すぎるような気もするんだが、俺は。
三塚 刑務官として必要なことなんじゃないですか？ 気持ちを強く持つのは。
小栗 それもそうだが……同僚や俺につかかってくる時もあつてな。
三塚 そこらへんはもう少し経験を積みれば、バランスとれるようになるんじゃないですか？
小栗 ……だいいいんだが。
三塚 (鼻で笑い) ……。
小栗 ん？
三塚 私なんかがバランスだとか言うのはおかしいですけどね。
小栗 ……いや、ご意見ありがとうございます。
三塚 意見じゃないですよ。あまり参考にしないで下さい。
小栗 ……。

小栗、突然物思いに耽り出したように、ただぼんやりとそこに立っている。

三塚 ……小栗さん？
小栗 まだ何かありましたか？
三塚 ん、あ、えーとな、ほら、この前頼まれた本なんだけどな。続編探してくれて言われた奴。
小栗 ああ、ありがとうございます。
三塚 いや、見つかなかったんだ。
小栗 そうですか……。
三塚 いや見つかなかったつちゅうか、まだ入荷してないつてよ。店の人に聞いたんだけど。
小栗 ああ……いえ、こちらこそすいません。わざわざ。
三塚 ごめんな。
小栗 すいません。いつ入るつて言ってました？
三塚 ん？ んーと……なんか売切れていつ入ってくるか分からないらしい。
小栗 来週には入りますか？
三塚 さあ。
小栗 来月になりますか？
三塚 分からないな。俺に聞かれても。
小栗 ……んー。図々しくて申し訳ないんですが。
三塚 なんだ？
小栗 良かったら予約というか、取り寄せしてもらえませんか？
三塚 どうしても続きが読みたいんです。
小栗 そんなに面白いのか？
三塚 続きが気になるんです。
小栗 ……分かった。
三塚 すぐじゃなくてもいいんです。ついでの時で。本屋に立ち寄ったときでいいんです。
小栗 いや、今日また行つてきて頼んでくる。
三塚 ありがとうございます！
小栗 そんなに面白いんだつたら、読み終わつたら俺に貸してくれ。
三塚 はい(笑)
小栗 何が面白いんだ、そんなに。
三塚 うーん、そうですね。何がって、
小栗 説明できないか？
三塚 簡単に言うそうですね、主人公が自分に似てる感じがするんですよ。
小栗 ほう。どの辺が。
三塚 どの辺。んー……。

雨足がまた強くなる。三塚、シャツの第一ボタンの部分を触り、

三塚 あ、ボタン、取れかかっている。
小栗 え？

しんじやうおへや

～ 第三話 彷徨 ～

三塚 このボタン……そういえば、だいぶ前に小栗さんにつけてもらいましたよね。
小栗 ああ……。
三塚 何年前だろう？

先ほど消えた女が、どこからともなく現れる。
三塚はそれに気づき、

三塚 あ。
女 あ。
三塚 ねえ、ちよつと、
小栗 ん？

た。
三塚、女の方へ寄っていかうとするが、女はまた逃げるように走って行き、消えた。
と、同時に雨が止む。

三塚 あれ？ どこ行った？
小栗 それじゃ、行くわ。
三塚 え？
小栗 静かにしてくれよ。
三塚 はい。あ、小栗さん。
小栗 ん？
三塚 ちよつと聞きたいことが。
小栗 何だ？
三塚 ……あの、
佐久間 ちよつと聞きたいことが。

と、いつの間にかスーツ姿の男・佐久間が現れていた。

三塚 ……はい？
佐久間 ちよつと聞きたいことが。
三塚 何でしょう？ すぐ出かけなきゃいけないんで。
佐久間 ちよつと聞きたいことが。
三塚 わかりました。少しなら。
小栗 おい。
三塚 はい。
小栗 行くぞ。
三塚 すいません。

小栗、ドアから去る。

佐久間 ちよつと聞きたいことが。
三塚 分かったよ、しつこいな。
佐久間 4回しか聞いてませんよ？
三塚 4回も、だろ。
佐久間 いやあ、ずいぶん短気ですね。
三塚 余計なお世話だ。
佐久間 すいせん。つい思ったこと喋っちゃうんですよ。独り言みたいなもんです。
三塚 お前もか。
佐久間 はい？
三塚 ん？ いや、何でもないです。
佐久間 …… すいせんね、こんな夜遅くに。
三塚 お茶も何もないすけど。
佐久間 のど乾いてないんで、お構いなく。さっさと済ませますから。
三塚 そうすか。

佐久間は部屋の中を眺めながらブラブラと歩く。

佐久間 だけど、思ったより広いですね、部屋。

しんじやうおへや ～ 第三話 彷徨 ～

三塚 何も置いてないすから。
佐久間 ほんとだ。何もないね。大丈夫なの？ これで暮らして行けんの？
三塚 はい。

佐久間 一人？

三塚 はい。
へー。なんか却って落ち着かなくない？ 俺ダメだなこういうの。もっと散らかってないと。

佐久間 机の上でも何にも無いと妙にねえ、
それで？

三塚 「それで」？
それで？

佐久間 それで……。さ、手っ取り早く行きますよー。お仕事は何を？
……バイトです。作業員。

三塚 何の？

佐久間 色々。(タバコを取り出す)
(タバコを取り上げる) その色々を教えてよ。

三塚 おい。
終わったら返すから。

佐久間 ……毎日違うんすよ。

三塚 何で。
だから、色んな現場に連れて行かれるんすよ。土木工事とか、内装工事とか。

佐久間 ふーん。どのくらいやつてんの。
今んところは、半年くらい。

三塚 給料は？

佐久間 だから、それもそんな時々で
平均は。大体？
7千円から8千円。たまに1万円とか。

三塚 それが日給？
はい。

佐久間 明細は？ ある？
……。

三塚 明細。出せって。
……そんなもんねーすよ。すぐ捨てるし。

佐久間 ま、いいや。会社に聞けばいいし。趣味とかないの？
趣味？

三塚 趣味。
そんなもの無いすよ。

佐久間 ほんとに？
……。

三塚 俺はちなみに、休みの日は釣り行ったりとか、キノコとか山菜採りとか。
……へえ。

佐久間 あとはたまに家でDVD見たりとか。『24』『TWENTY FOUR』って知ってる？
いや。

三塚 アメリカのドラマなんだけどさ、先月勢いでDVD-BOX買ったんだよ。全36枚。
見たのまだ2枚。もう飽きちゃって。あと、最近はパソコンでユーチューブ見たりな。この

三塚 前も猫の動画ばかり見て一日終わったしな。読書とか……好きな作家とかいる？
作家なんか知らねえよ。読まねえよ、本なんか。

佐久間 だろうと思った。で？
で？

三塚 なんがあるだろ趣味の1つや2つ。一人暮らしで、こんな何も無い部屋で、もらった給料ど
こにやるんだよ。貯金でもしてんのか？

三塚 しねえよ。
だろ？ じゃあ何に使うんだよ。家賃と飯代と光熱費以外に。

三塚 酒とタバコ。
それだけじゃねえだろ。

三塚 ……なんすか。
借金とか。

佐久間 ねえよ。趣味じゃねえし。
そう言うけどな、しょっちゅう借金してる奴見てると、案外趣味なんじゃないですかって思
えてくるんだよ。

しんじやうおへや

～ 第三話 彷徨 ～

三塚 そんな悪趣味じゃないですけど。
佐久間 ……あ、そう。
三塚 聞きたいことって、それだけですか。
佐久間 先月、ちょうど24のDVDが届いた次の日だったかな……ここから1キロくらい離れたマンション内で死体が発見されました。
三塚 (気のない感じで) はあ。
佐久間 被害者の部屋や財布から現金が無くなってまして、強盗殺人事件とみて捜査しています。
三塚 あ、そう。
佐久間 (懐から写真を取りだし) 被害者の方の写真です。

佐久間は三塚にその写真を見せる。三塚、その写真をじつと見る。

佐久間 ご存じですか？
三塚 ……見たことはありません。
佐久間 本当に？
三塚 知りません。

女が、先ほど消えたところから再び現れる。

三塚 あ。
女 あ。
三塚 また。
女 ……。
三塚 どこに居たんですか？
佐久間 本当に？
三塚 知りません！(女に) あの、どこでお会いしましたっけ？
女 知りません。
佐久間 本当にどこでも見たこと無いんですか？
三塚 知らないつつてんだろ！ あの、ちよつと、

三塚は女に近づいていく。

女 近づかないで！

女はドアに向かって駆け出すが、到達する前に三塚は女の腕を掴んで引き止める。

佐久間 監視カメラに写ってたんですよ。
三塚 (立ち止まり) カメラ？
佐久間 マンション玄関前の監視カメラ。あなたが写ってたんです。
三塚 ……はあ。
佐久間 といっても、玄関内に入ってはいませんでした。向かって左側の、非常階段のある方へと向かって行く姿が写ってました。ま、それだけなんですけど。
三塚 ……ええ。
佐久間 いや、逮捕するとかそういうことで来たんじゃないですから、今日は。(写真をしまい、紙を一枚出す) すいませんけど、この紙のここんとこに一筆サインもらえますか？
三塚 はい。

三塚、女から手を離し、佐久間からペンを受け取り、紙にサインする。佐久間に紙を返す。

佐久間 えーと……読み方は。
三塚 「みつづか」です。「みつづか たかし」。
佐久間 ああ。「みつづか たかし」さんですか。
三塚 はい。
佐久間 はい。ま、余計なお世話なんですけど、
三塚 はい？
佐久間 「塚」の字が間違ってますよ。右の方の線が一本足りないですよ。こここのところの。
三塚 あ、そうですか。読めないですか？
佐久間 ……余計なお世話でしたね。